

# おたふく風邪（ムンプス）

## 症状

- ・唾液をつくる唾液腺（耳たぶの周りの耳下腺）、（下あごの奥の顎下腺）がはれる病気です。
- ・おたふく風邪ウィルスの感染により発病します。発症年齢は、3～6歳が約60%を占めています。
- ・感染しても症状の出ない不顕性感染も約20%に認められます。
- ・飛沫感染し、潜伏期間は14～25日（平均14～18日）です。
- ・突然両側または片側の唾液腺腫脹を生じます。耳たぶの周囲にある耳下腺、下顎の奥にある顎下腺が腫れます。
- ・痛みを伴うことが多く、同時に発熱も認めます。その他、筋肉痛、食欲低下、倦怠感、頭痛を生じます。
- ・この耳下腺の腫脹は、発症3日位がピークで、7～10日で消失します。
- ・一般に、年齢が小さいほど、腫脹期間が短く、就学前の子どもは、5日前後で消失します。
- ・逆に年齢が高いほど、症状も多く、合併症の頻度も高くなります。
- ・かなりの痛みを伴うので、医療機関を受診されるほうがよいでしょう。

## 治療

- ・治療法はありません。症状に応じた対症療法が行われます。解熱・鎮痛剤などです。
- ・難聴という重大な合併症を防ぐ意味でも、ワクチン接種が重要です。
- ・MRワクチンと同様、1歳と年長さんの2回接種して下さい。効果は、90～95%以上です。

## 登園・登校のめやす

- ・登園、登校は、耳下腺の腫脹が完全になくなってからにして下さい。
- ・かかりつけ医に、許可書をもらう必要があります。

## 急患診療センターを受診するめやす

- ・基本的に救急外来に受診する必要はありません。
- ・解熱鎮痛剤で発熱、痛みなどを軽くしておけば、かかりつけ医を受診するだけで十分です。ただし、神経症状や聴力低下があるときは早期に受診してください。
- ・激しい頭痛、嘔吐を生じる髄膜炎が多く認められます。1～10%のヒトに発症していると言われていますが、軽症例が多く、後遺症を残すことは稀です。ただし、意識障害が加わった時は脳炎が疑われます。後遺症や死亡につながりますので、すぐに医療機関を受診して下さい。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）  
<http://www.niigata-er.org>